学位論文要旨

リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容に関する基礎的研究

－ ダンス指導の「悩み事」を手がかりにして －

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻　教科教育学分野
健康スポーツ教育学領域

D175145　　生関　文翔

1. 研究の背景

わが国の学校体育におけるダンスについて，リズム系ダンスの導入および，ダンスの男女必修化が実施されて久しい．平成 10・11 年度の学習指導要領の改訂におけるリズム系ダンスの導入理由は，社会でリズム系ダンスに対する関心が高まっていたことや，導入前から学校現場で多くの実践がみられていたことなどが挙げられる（村田・松本，2004）．また，ダンスの男女必修化の実施について，平成 20 年度の中学校学習指導要領の改訂では，多くの領域の学習を体験させた上で，自ら適した運動を選択できるようにすることを目的として，中学校 1・2 年生においてダンスが必修化された．このことにより，「男性教員を含めたすべての教員が，ダンスの授業を実施するための指導力を備えることが求められることとなった」（山﨑，2013，p.73）のである．

それ以降，教員のダンス指導やその「悩み事」[注1)]に言及した研究が多くみられるようになった（例えば，嘉数ほか，2015；松本・寺田，2013；松本ほか，2013；中村，2012）．わが国の学校体育におけるダンスの授業の課題として，大きく 3 点の「悩み事」が挙げられている．1 点目は教員自身に関する「悩み事」，2 点目は施設および教材に関する「悩み事」，3 点目は児童生徒に関する「悩み事」である．

1 点目の教員自身に関する「悩み事」は，教員の実技経験の不足による示範ができないことに関する「悩み事」，ダンスのよい動きが分からないことによる技能面の評価および助言の仕方が分からないという「悩み事」が挙げられている（例えば，三浦，1995；宮本，2012；武井，2003）．2 点目の施設および教材に関する「悩み事」は，映像教材が不足している，あるいは CD ラジカセおよび DVD 教材を視聴するためのテレビ台が不足しているという「悩み事」が挙げられている（例えば，松本・寺田，2013；武井，2003）．3 点目の児童生徒に関する「悩み事」は，児童生徒の能力に差があるという「悩み事」，あるいは児童生徒の意欲を喚起する手立てが分からないという「悩み事」が挙げられている（例えば，茅野，2013；三浦，1995；宮本，2012；武井，2003）．

また，文部科学省の意図するダンスの内容が教育現場に正確に伝達されていない，もしくは伝達されていたとしても，教員自身が児童生徒のニーズに翻弄されてしまっていることが報告されている（山口ほか，2017）．具体的に，文部科学省（2013）は，リズム系ダンスの技能のポイントとして自由にリズムに乗って踊ることを記載している．しかしながら，教員は，映像を模倣させて終わったり，振り付けや既存の動きを教えたりする指導を行っていることが課題として指摘されている（中村，2009；山口ほか，2017）．

他方，振り付けや既存の動きを教える指導内容が課題であるという認識は，指導内容自体が課題ではなく，「立場によって学習指導要領の解釈が異なるというところにとどまる」（大西ほか，2016，p.38）という指摘もある．具体的に，リズム系ダンスの指導内容の捉え方については，3 つの立場がある（表 1）．それは，(1) ヒップホップダンスのステップ（スマーフ，ボックスなど）や，教員が準備している振り付けを指導するような既存の振り付けを取り上げた指導，(2) 即興的で自由な動きを引き出す指導，(3) 教員が用意した振り付けの中に，学習者が自由に踊る部分を設けるような既存の動きや振り付けを工夫したり創造したりする指導である（大西ほか，2016）．

これらの 3 つの立場における指導内容の捉え方は，自由をどのように捉えるかという解釈が異なると言えよう．例えば，第 1 に，既存の振り付けを取り上げた指導である．この指導内容の捉え方は，既存の振り付けの中からどのように個性を出していくか，という自分なりの表現力の部分や,同じグループメンバーの立ち位置や構成を考える部分を自由として捉えていると考えられる．第 2 に，即興的で自由な動きを引き出す指導は，リズムに合わせて動きを即興的に表現する部分に自由の価値を見出していると推察される．第 3 に，既存の動きや振り付けを工夫したり創造したりする指導である．この指導内容は，既存の動きや振り付けをどのように組み合わせてアレンジしていくか，という表現力の部分を自由として捉えていると考えられる．

以上を要約すると，リズム系ダンスにおいて既存の振り付けを教える指導は，学習指導要領が示すリズム系ダンスの指導内容ではないと指摘されてきた（中村，2009 ; 山口ほか，2017）．その一方で，近年では，既存の振り付けを教える指導内容が課題なのではなく，あくまで自由をどのように捉えるかという認識の違いであることが指摘されている（大西ほか，2016）．このような先行研究における指導内容の捉え方の相違は，教員にとって指導内容の理解に苦しむ要因となるであろう．実際，リズム系ダンスの教員研修[注2)]が数多く実施されている現在においても，上述のとおり，リズム系ダンスにおける指導の「悩み事」は数多く報告されている．したがって，教員の「悩み事」に寄り添った支援が不足していると考えられる．このことから，リズム系ダンスにおけるダンスの指導力[注3)]について教員が抱いている「悩み事」の内実を調査し，その「悩み事」をもとにしたリズム系ダンスの教員研修の内容を検討することは喫緊の課題であるといえよう．とりわけ，本論文では，教員が多く実践している傾向（中村，2009 ; 山口ほか，2017）にある既存の振り付けを取り上げた指導に着目した研修内容を実施する．

表 1．教員が実践しているリズム系ダンスの指導と自由の解釈

リズム系ダンスの指導	指導の具体例	自由の解釈
既存の振り付けを取り上げた指導	・ヒップホップダンスのステップ（スマーフ，ボックスなど）や，教員が準備している振り付けを指導する	・既存の振り付けの中からどのように個性を出していくか，という自分なりの表現力の部分 ・同じグループメンバーの立ち位置や構成を考える部分
即興的で自由な動きを引き出す指導	・さまざまな音楽のリズムに合わせて即興的に踊り，友だちの動きをみたり交流したりしながら自分の好きな動きをみつけ，組み合わせられるよう指導する	・リズムに合わせて動きを即興的に表現する部分
既存の動きや振り付けを工夫したり創造したりする指導	・教員が用意した振り付けの中に，学習者が自由に踊る部分を設ける	・既存の振り付けや動きをどのように組み合わせてアレンジしていくか，という表現力の部分

大西ほか（2016）をもとに筆者が作成

2. 本論文の目的

本論文は，教員が抱いているリズム系ダンスの指導の「悩み事」を手がかりとして，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討することを目的とする.具体的には，次の 3 点の研究課題を設定する.

（1）教員のリズム系ダンスにおける指導の「悩み事」の内実について，性別・校種・教職経験年数[注4)]・ダンス指導歴の差異から調査する.

（2）文部科学省が示しているリズム系ダンスの指導内容とリズム系ダンスの実践研究をもとに，リズム系ダンスにおける教員研修の目標を検討する.

（3）（1）と（2）で得られた知見とダンス未経験の教員の「悩み事」を手がかりとした教員研修を実施し，その効果と課題を検証する.

3. 本論文の概念的枠組み

教員研修の義務については,教育基本法第 6 条や教育公務員特例法第 19 条において規定されている．また，近年，教員の養成・採用・研修の一体的改革が必要とされており，教員研修に関する課題については，大きく次の 3 点が挙げられている．それは，(1) 教員研修の機会を確保すること，(2) 教員のニーズを踏まえた教員研修を実施すること，(3) 教員研修そのものの在り方や手法を見直すことである（中央教育審議会，2015）．つまり，教員研修を提供する側は，教員のニーズを踏まえた教員研修の在り方や手法について検討し，その教員研修の機会を作っていく必要がある（Fuller and Case，1969 ; 加登本ほか，2010）．そのため，本論文では，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討するために，PDCA サイクルに基づいた検討をすることとした．PDCA サイクルとは，Plan（計画），Do（実行），Check（評価），Action（改善）からなる行動プロセスである（教職員支援機構，2018）．この PDCA サイクルについて,「近年の教育委員会や校内の研修では，PDCA サイクルを意識した研修が進められ，教師にはある程度定着した手法である」（佐藤ほか，2016，p.30）と考えられており，PDCA サイクルに基づいた教員研修の研究に関する実績もみられる（例えば，佐藤ほか，2016 ; 高根・新保，2017）．その際，先述のとおり，事前に教員のニーズや，教員研修そのものの在り方や手法を分析することが重要となる（中央教育審議会, 2015）. 教員研修を検討する際の事前の分析について, ガニェほか（2018）は，次の具体的活動を示している．それは，(1) 教員研修が解決策となるニーズを決定すること，(2) 教員研修の目標を設定すること，(3) 利用可能な時間や，その時間の中でどの程度，目標を達成できるか分析すること，である.

そのため，本論文は，PDCA サイクルをもとに，ガニェほか（2018）が示した上記 3 点について分析し，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討する.

4. 本論文の構成および研究の方法

本論文は，第 1 章の序論から始まり，第 5 章の結論までの構成となっている．ここでは，本論

文の構成および研究の方法について，図 1 をもとに各章に分けて概説していく．

第 1 章の序論は，主にダンスの指導力と「悩み事」に着目して，先行研究をもとに，わが国の学校体育におけるダンス指導の現状と課題を整理する．また，本論文の目的と概念的枠組みについて示す．

第 2 章は，教員研修が解決策となるニーズを決定する段階である．ここでは，教員のダンス指導に関する「悩み事」を調査し，教員がリズム系ダンスの教員研修で求めていることを検討する．研究の方法として，量的研究を行う．具体的に，質問紙調査法を用い，性別，校種，ダンス指導歴および教職経験年数の差異から「悩み事」の内実を把握し，教員が教員研修で求めていることを調査していく．

第 3 章は，教員研修の目標を設定する段階である．ここでは，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の目標を検討する．研究の方法として，既に実施されているリズム系ダンスの学術論文（実践研究）の文献研究を実施する．具体的に，リズム系ダンスの指導について学術論文で示された技能面の評価の記述内容を空間，時間，力の視点から演繹的に分析していく．

第 4 章は，教員研修が解決策となるニーズの決定と教員研修の目標設定の結果をもとに PDCA サイクルに基づいて教員研修を実施する段階である．まず，第 4 章で対象とする教員の「悩み事」および求める教員研修の内容を調査し，その結果をもとに教員研修の内容を検討する．その後，1 回目のリズム系ダンスの教員研修を計画（Plan）して実行（Do）し，その成果と課題を評価（Check），改善（Action）していく．その改善（Action）から得られた課題をもとに，2 回目のリズム系ダンスの教員研修を計画（Plan）して実行（Do）し，その成果と課題を評価（Check），改善（Action）する．そうすることで，第 5 章のリズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討できるようにする．研究の方法として，質的研究を行う．第 4 章では，リズム系ダンスにおける教員研修実施前後の「悩み事」および今後求められる教員研修の内容だけではなく，教員研修後の授業実践で生じた「悩み事」および今後求められる教員研修の内容にも言及する．具体的に，ダンス未経験の中学校保健体育科教員 X を対象として，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修を 2 回実施し，教員研修実施前後と教員研修実施後の授業実践で生じた「悩み事」と求められる教員研修の内容を調査する．

第 5 章の結論は，利用可能な時間や，その時間の中でどの程度，目標を達成できるか分析をする段階である．まず，第 2 章で対象とした教員におけるリズム系ダンスの指導の「悩み事」の内実（量的研究），第 4 章で対象とした教員におけるリズム系ダンスの指導の「悩み事」（質的研究）の内実を比較，検討し，教員研修が解決策となるニーズを決定する．次に，第 3 章で得られた知見をもとに，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の目標を設定する．最後に，第 2 章から第 4 章で明らかになった知見をもとに，教員研修として設定する時間や，その時間の中でどの程度，目標を達成できるか分析し，整理する．

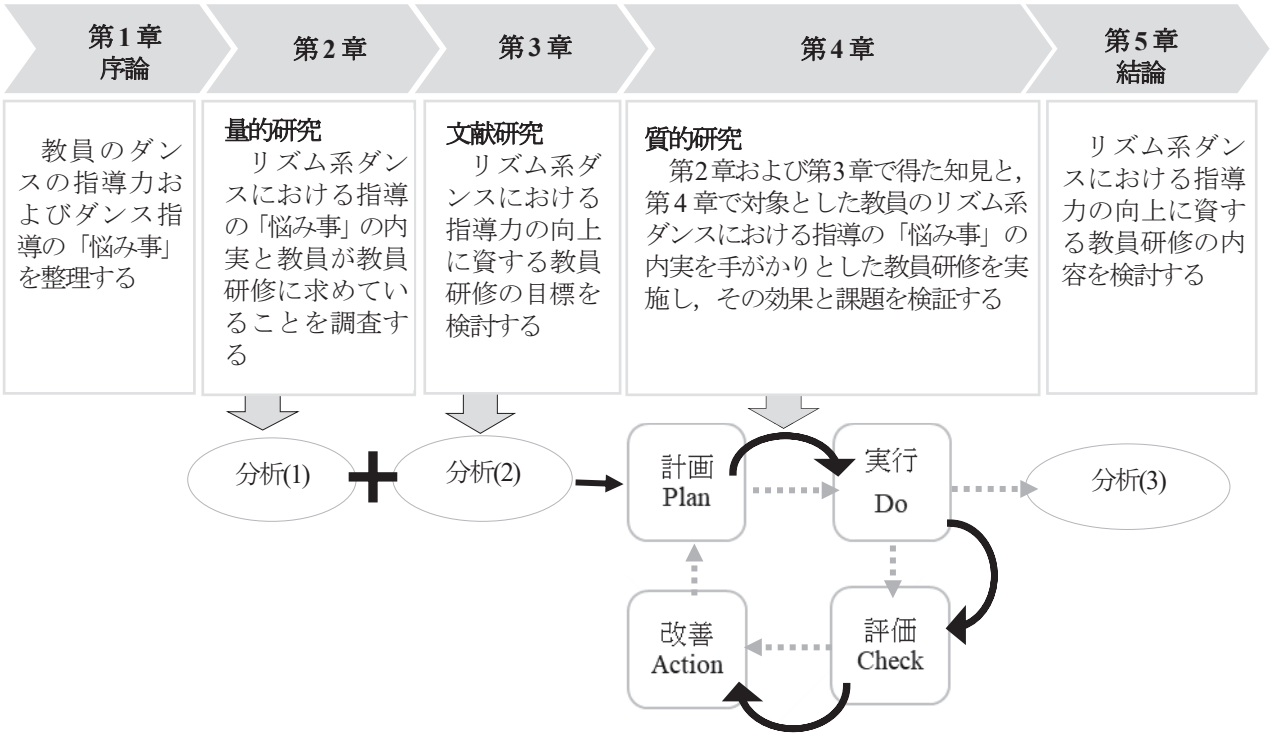

図 1．本論文における構成図

4．結果

4．1．リズム系ダンスにおける指導の「悩み事」に関する調査研究

：性別・校種・ダンス指導歴および教職経験年数の差異を手がかりに

ここでは，リズム系ダンスにおける小・中学校教員の指導の「悩み事」について，校種，性別，ダンス指導歴および教職経験年数の差異という視点から明らかになったことを述べる．

調査対象は，X 県 A 市と B 市の教員 240 名であった．表 2 は，対象者を校種別にみた属性を示している．全対象者のうち，小学校教員が 156 名，中学校教員（保健体育）が 84 名であった．さらに，教職経験年数やダンス指導歴についても示している．

表 2．対象者の属性

校種	性別	教職経験年数		ダンス指導歴	
小学校　156 名	男性　114 名 女性　42 名 合計　156 名	若手教師	37 名	指導なし	32 名
		中堅教師	37 名	1 年-4 年	75 名
		ベテラン教師	82 名	5 年以上	49 名
中学校　84 名	男性　56 名 女性　28 名 合計　84 名	若手教師	31 名	指導なし	41 名
		中堅教師	18 名	1 年-4 年	34 名
		ベテラン教師	35 名	5 年以上	8 名
				無回答	1 名

その結果，以下の点が明らかになった．

(1) リズム系ダンスにおける指導の「悩み事」について

1) 校種の差異なく上位項目として挙げられるリズム系ダンスの指導の「悩み事」は，「示範ができない」，「よい動きが分からない」，「指導内容が分からない」ことであった．

2）若手教師は，中堅教師と比較して「児童生徒の能力差」に関する「悩み事」が大きい．

3）ダンス指導歴において，次のような「悩み事」の階層性が示された．

①経験がない教員は「自分でリズムがとれない」という「悩み事」が大きい．

②指導歴 1 年-4 年の教員は「リズムはとれるが，指導内容が分からない」という「悩み事」が表出する．

③指導歴 5 年以上の教員は「リズムをとることや指導内容の理解についてはあまり問題ではないが，児童生徒の意欲を引き出す指導法が分からない」という「悩み事」が表出する．

（2）小・中学校教員がリズム系ダンスの教員研修に求めていることについて

1）「評価」，「指導法」，「授業の進め方」を含む多様な実践事例の紹介がある．

2）実技力の向上と，身体を介して指導のポイントやコツが理解できる．

3）児童生徒の発達段階に即した指導内容である．

4）映像教材を活用した実技の教員研修である．

5）曲と指導方法をセットにした教員研修である．

4．2．リズム系ダンスにおける教員研修の目標に関する検討：よい動きを引き出す視点に着目して

ここでは，リズム系ダンスのよい動きを引き出す視点を明らかにし，リズム系ダンスにおける教員研修の目標を検討することを目的とした．研究の方法として，リズム系ダンスのよい動きを引き出す視点について，表現系ダンスおよびリズム系ダンスの実践研究で示された技能の評価に関する記述から検討した．その結果，次の 2 点が示された．

（1）リズム系ダンスのよい動きを引き出す視点は，音楽のリズム（使用する音楽そのものの強弱や長短，アクセント）と動きのリズム（空間，時間，力の観点）があり，その 2 つのリズムを同調させることが大切である．

（2）リズム系ダンスにおける教員研修の目標として，教員が音楽のリズムと動きのリズムについて実技研修を通して理解できるようにする必要がある．

4．3．リズム系ダンスにおける教員研修の内容に関する事例的検討：ダンス未経験の教員の「悩み事」を手がかりに

ここでは，ダンス未経験の中学校保健体育科教員 X の「悩み事」を手がかりに，リズム系ダンスにおける教員研修の内容について事例的に検討することを目的とした．その結果，教員がリズム系ダンスの教員研修で求めていることについて，以下の 3 点が示された．なお，第 2 章の調査結果において小・中学校教員間の「悩み事」の差異は認められなかったことから，本対象は中学校保健体育科教員であるが，小学校教員にも共通する事項であると考えられる．したがって，学習者の示し方は，生徒ではなく児童生徒と示す．

（1）児童生徒が，リズム系ダンスにおける基本的な動きを，模倣を通して理解できるような動き

の素材を提供すること

（2）児童生徒の実態に応じた空間，時間，力の工夫に関する動きの即時的な言語指導例を紹介すること

（3）音楽のリズムの特徴を捉えた動きの指導方法を提案すること

また，この 3 点を教員研修に取り入れる際，模倣を通した基本的な動きの理解に重点を置くのではなく，児童生徒の実態に応じた動きの即時的な言語指導および，音楽のリズムの特徴を捉えた動きの指導方法に焦点をあてた教員研修の内容を検討する必要性が示された．

具体的に，まず，児童生徒の実態に応じた動きの即時的な言語指導についてである．空間，時間，力の工夫について，教員研修で説明を受けたり実際に実技指導を受けたりしただけでは，教員からは「児童生徒の実態に応じた動きの即時的な言語指導ができない」という「悩み事」が挙げられる可能性がある．そのため，リズム系ダンスにおける教員研修では，研修実施者が児童生徒に対して授業実践をする姿を，教員がみて学ぶ形態の教員研修を実施する必要がある．次に，音楽のリズムの特徴を捉えた動きの指導方法についてである．リズム系ダンスの指導において，単元の初めにダンス作品の模倣やステップの習得を取り入れた場合，教員からは「児童生徒からオリジナルな動きを引き出す方法が分からない」という「悩み事」が挙げられる可能性がある．この「児童生徒からオリジナルな動きを引き出す方法が分からない」という「悩み事」は，教員が授業で扱う音楽のリズムにどのように動きを組み合わせればよいか分からないことに原因があると考えられる．そのため，リズム系ダンスにおける教員研修を実施する際は，研修実施者が，リズムに変化を加えて動くとはどういうことか，授業で扱う音楽のリズムの特徴を捉えてどのような動きの変化を加えたらよい動きと言えるのかを指導する必要がある．加えて，模倣を通した基本的な動きの理解については，教員研修の内容に取り入れるだけではなく，映像教材として蓄積したものを教員へ提供していくことが必要である．

5. 本論文の総括と今後の課題

5. 1. 本論文の総括

本論文は，教員の保有するリズム系ダンスの指導の「悩み事」を手がかりとして，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を検討することを目的とした．具体的には，第 1 に，リズム系ダンスにおける指導の「悩み事」の内実について量的に調査すること，第 2 に，文部科学省が示しているリズム系ダンスの指導内容とリズム系ダンスの実践研究をもとに，リズム系ダンスの教員研修の目標を検討すること，第 3 に，これらの研究で明らかになった知見をもとに教員研修を実施し，その効果と課題を検証すること，という 3 点を研究課題として設定した．その結果について，表 3，表 4，表 5 をもとに概説していく．

表 3 は，リズム系ダンスにおける「指導内容が分からない」という教員の「悩み事」を軽減させるための教員研修の内容（合計 90 分）である．この教員研修は，動きのリズムに焦点をあてた研修である．ここでは，教員が，リズム系ダンスにおけるよい動きを引き出す視点について空間，

時間，力という用語を用いて例を示しながら説明したり，それぞれの対極の要素を組み合わせながら楽しく踊ったりすることができるように，講義と実技研修を組み合わせた教員研修を設定した．

表 4 は，リズム系ダンスにおける「示範ができない」,「よい動きが分からない」という教員の「悩み事」を軽減させるための教員研修の内容（合計 340 分）である．この教員研修は，動きのリズムと音楽のリズムを同調させることに焦点をあてた教員研修である．ここでは，教員が，使用する音楽のリズム（強弱や拍の長短，アクセント）の特徴や，その音楽のリズムと動きのリズム（空間，時間，力の観点）を同調させることについて説明したり，教員がその音楽のリズムの特徴を捉えて動きのリズムを同調させながら楽しく踊ったりできるように，講義と実技研修を組み合わせた教員研修を設定した．その際，本論文において,「示範ができない」,「よい動きが分からない」という教員の「悩み事」を軽減させるための教員研修は，長期的に実施する必要性が示されている．そこで，文部科学省（2013）が示しているリズム系ダンスの音楽（サンバ，ロック，ヒップホップ）の音楽を取り上げ，第 1 回から第 4 回までの教員研修の内容を示した．具体的に，第 1 回は，サンバの音楽のリズムに着目した教員研修（80 分），第 2 回は，ロックの音楽のリズムに着目した教員研修（80 分），第 3 回は，ヒップホップの音楽のリズムに着目した教員研修（80 分），第 4 回は，第 1 回から第 3 回までの教員研修を踏まえ，自分の好きな音楽の特徴を捉えたダンスの創作をする教員研修（100 分）である．第 1 回から第 3 回までは，文部科学省（2013）が示している音楽のリズムの特徴を講義と実技研修を組み合わせて実施し，第 4 回は，教員が，教員研修で得た知見をもとにして音楽の特徴を捉えながらダンスを創り上げていく構成となっている．

表 5 は，リズム系ダンスにおける「児童生徒の意欲を引き出す指導方法が分からない」という教員の「悩み事」を軽減させるための教員研修の内容（合計 125 分）である．この教員研修は，動きのリズムと音楽のリズムを同調させることを児童生徒に指導する方法に焦点をあてた教員研修である．ここでは，教員が，児童生徒の動きをみて，空間，時間，力の視点から即時的な言語指導をするとともによい動きの示範をすることができるように，ダンスの専門家による授業をみて学ぶ形態および協議会を組み合わせた教員研修を設定した．

以上，本論文の知見から検討した教員研修の内容を実施することにより，リズム系ダンスにおける指導力，すなわち，教員が，リズムをもとにしたよい動きを引き出す視点について理解し，そのよい動きを引き出す視点をもとにリズム系ダンスの指導ができる力の向上に寄与することができると考える．

5．2．本論文の課題と展望

本論文は，PCDA サイクルをもとに研究を進め，表 3，表 4，表 5 のように，リズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を示すことができた．しかしながら，必要とされる具体的な教員研修の時間の整合性は，検討の余地がある．

そのため，今後は，本論文で検討したリズム系ダンスの教員研修の内容について教員を対象として定量的な視座から検証していく必要がある．そこで得られた知見をもとにリズム系ダンスにおける指導力の向上に資する教員研修の内容を再検討し，改善した教員研修を実施することで，リズム系ダンスの指導の「悩み事」を軽減させるための一助としたい．

表 3．リズム系ダンスにおける「指導内容が分からない」という「悩み事」を軽減させるための教員研修の内容

<table>
<tr><td colspan="2">悩み事</td><td>指導内容が分からない</td></tr>
<tr><td rowspan="3">行動目標</td><td>知識</td><td>教員が，リズム系ダンスのよい動きを引き出す視点について空間，時間，力という用語を用いて例を示しながら説明することができる</td></tr>
<tr><td>技能</td><td>教員が，動きのリズム（空間，時間，力の観点）を工夫しながら踊ることができる</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>教員が，楽しみながら踊ることができる</td></tr>
<tr><td>時間
90 分</td><td colspan="2">教員研修の内容</td></tr>
<tr><td>10 分</td><td colspan="2">・教員研修の趣旨と行動目標（知識，技能，態度）の説明をする
・参加教員のリズム系ダンスにおけるよい動きの捉え方を確認する
（8 拍分のリズムに合わせた動きの動画（空間，時間，力の視点を取り入れた動きとそうでない動き）をみせ，どちらがよい動きと捉えるか，それはなぜか，教員研修用シート①に記載させる）
・リズム系ダンスにおけるよい動きを引き出す視点とは，空間，時間，力それぞれの対極の要素を組み合わせながら踊ることであることを示範しながら説明する</td></tr>
<tr><td>10 分</td><td colspan="2">・研修実施者が考えた振り付け（32 拍分）を教員に教える</td></tr>
<tr><td>40 分</td><td colspan="2">・教員研修に参加した教員を 3-4 人ずつのグループに分け，空間，時間，力それぞれ対極の要素の組み合わせを意識しながらよい動きに近づけられるよう練習する時間をつくる
（この際，進度がはやいグループがあれば，動きにアレンジを加えたり，立ち位置や構成を加えたりさせても良い）
・巡視しながら各グループの状況に応じた空間，時間，力の工夫に関わる即時的な言語指導を加える</td></tr>
<tr><td>15 分</td><td colspan="2">・リズム系ダンスの発表会および動画撮影を行う
（発表会の実施方法：参加教員の人数によって変更する）
① 5 グループ以内の場合，1 グループずつ全員の前で発表し，発表後にそのグループの良かった点を 3 名程度の教員に発表してもらう
② 6 グループ以上の場合，3 グループでみせ合い，発表後にそのグループの良かった点を 3 名程度の教員に発表してもらう</td></tr>
<tr><td>15 分</td><td colspan="2">・最初にみせた 8 拍分のリズムに合わせた動きの動画（空間，時間，力の視点を取り入れた動き）をみせ，なぜよい動きといえるのか，教員研修用シート①に記載してもらう
・教員研修用シート①に，本日の研修の振り返りを記載してもらう
・教員研修用シート①に記載した内容および気づきを 4 名程度の教員に発表してもらう</td></tr>
<tr><td rowspan="3">評価</td><td>知識</td><td>・教員が記載した教員研修用シート①のリズム系ダンスにおけるよい動きとは何か，という回答において，空間，時間，力という用語を用いて具体例を示しながら説明ができているか</td></tr>
<tr><td>技能</td><td>・「空間」：大-小，「時間」：はやく-おそく，「力」：強-弱などの対極の組み合わせを強調できているか</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>・教員が記載した教員研修用シート①のリズムに乗って踊るダンスの好意度評定（5 段階）が 4 以上になっているか</td></tr>
</table>

表 4. リズム系ダンスにおける「示範ができない」および「よい動きが分からない」という「悩み事」を軽減させるための教員研修の内容

<table>
<tr><td colspan="2">悩み事</td><td>示範ができない，よい動きが分からない</td></tr>
<tr><td rowspan="4">行動目標</td><td rowspan="2">知識</td><td>教員が，音楽のリズム（使用する音楽の強弱や拍の長短，アクセントの特徴）を説明することができる</td></tr>
<tr><td>教員が，音楽のリズム（使用する音楽の強弱や拍の長短，アクセントの特徴）と動きのリズム（空間，時間，力の観点）を同調させることについて，例を示しながら説明することができる
例）力強い動きをする前は，小さな動きをすることで力強い動きを強調させる，アクセントを打つときは，その直前にタメの動きをする，など</td></tr>
<tr><td>技能</td><td>教員が，音楽のリズム（使用する音楽の強弱や拍の長短，アクセントの特徴）と動きのリズム（空間，時間，力の観点）を同調させながら踊ることができる</td></tr>
<tr><td>態度</td><td>教員が，楽しみながら踊ることができる</td></tr>
<tr><td>時間
80 分</td><td colspan="2">教員研修の内容（1 回目：サンバの音楽のリズムに着目して）</td></tr>
<tr><td>15 分</td><td colspan="2">・教員研修の趣旨と行動目標（知識，技能，態度）の説明をする
・リズム系ダンスにおけるよい動きを引き出す視点の再確認をする
（空間，時間，力それぞれの対極の要素を組み合わせながら踊る）
・サンバ，ロック，ヒップホップなどの音楽のリズム（強弱や拍の長短，アクセント）の説明をする
・サンバの音楽を流しながら音楽のリズムと動きのリズムを同調させるためのポイントを解説する</td></tr>
<tr><td>10 分</td><td colspan="2">・研修実施者が考えた振り付け（32 拍分）を教員に教える</td></tr>
<tr><td>40 分</td><td colspan="2">・教員研修に参加した教員を 3-4 人ずつのグループに分け，空間，時間，力それぞれの対極の要素の組み合わせを意識しながらよい動きに近づけられるよう練習する時間をつくる
（この際，進度がはやいグループがあれば，動きにアレンジを加えたり，立ち位置や構成を加えたりさせても良い）
・巡視しながら各グループの状況に応じた空間，時間，力の工夫に関わる即時的な言語指導を加える</td></tr>
<tr><td>15 分</td><td colspan="2">・リズム系ダンスの発表会および動画撮影を行う
（発表会の実施方法：参加教員の人数によって変更する）
① 5 グループ以内の場合，1 グループずつ全員の前で発表し，発表後にそのグループの良かった点を 3 名程度の教員に発表してもらう
② 6 グループ以上の場合，3 グループでみせ合い，発表後にそのグループの良かった点を 3 名程度の教員に発表してもらう
・本教員研修の振り返りを行う</td></tr>
<tr><td>時間
80 分</td><td colspan="2">教員研修の内容（2 回目：ロックの音楽のリズムに着目して）</td></tr>
<tr><td>15 分</td><td colspan="2">・教員研修の趣旨と行動目標（知識，技能，態度）の説明をする
・リズム系ダンスにおけるよい動きを引き出す視点の再確認をする
（空間，時間，力それぞれの対極の要素を組み合わせながら踊る）
・サンバ，ロック，ヒップホップなどの音楽のリズム（強弱や拍の長短，アクセント）の再確認をする
・ロックの音楽を流しながら音楽のリズムと動きのリズムを同調させるためのポイントを解説する</td></tr>
<tr><td>10 分</td><td colspan="2">・研修実施者が考えた振り付け（32 拍分）を教員に教える</td></tr>
<tr><td>40 分</td><td colspan="2">・教員研修に参加した教員を 3-4 人ずつのグループに分け，空間，時間，力それぞれの対極の要素の組み合わせを意識しながらよい動きに近づけられるよう練習する時間をつくる
（この際，進度がはやいグループがあれば，動きにアレンジを加えたり，立ち位置や構成を加えたりさせても良い）
・巡視しながら各グループの状況に応じた空間，時間，力の工夫に関わる即時的な言語指導を加える</td></tr>
<tr><td>15 分</td><td colspan="2">・リズム系ダンスの発表会および動画撮影を行う</td></tr>
</table>

	（発表会の実施方法：参加教員の人数によって変更する） ① 5グループ以内の場合，1グループずつ全員の前で発表し，発表後にそのグループの良かった点を3名程度の教員に発表してもらう ② 6グループ以上の場合，3グループでみせ合い，発表後にそのグループの良かった点を3名程度の教員に発表してもらう ・本教員研修の振り返りを行う
時間 80分	教員研修の内容（3回目：ヒップホップの音楽のリズムに着目して）
15分	・教員研修の趣旨と行動目標（知識，技能，態度）の説明をする ・リズム系ダンスにおけるよい動きを引き出す視点の再確認をする （空間，時間，力それぞれの対極の要素を組み合わせながら踊る） ・サンバ，ロック，ヒップホップなどの音楽のリズム（強弱や拍の長短，アクセント）の再確認をする ・ヒップホップの音楽を流しながら音楽のリズムと動きのリズムを同調させるためのポイントを解説する
10分	・研修実施者が考えた振り付け（32拍分）を教員に教える
40分	・教員研修に参加した教員を3-4人ずつのグループに分け，空間，時間，力それぞれの対極の要素の組み合わせを意識しながらよい動きに近づけられるよう練習する時間をつくる （この際，進度がはやいグループがあれば，動きにアレンジを加えたり，立ち位置や構成を加えたりさせても良い） ・巡視しながら各グループの状況に応じた空間，時間，力の工夫に関わる即時的な言語指導を加える
15分	・リズム系ダンスの発表会および動画撮影を行う （発表会の実施方法：参加教員の人数によって変更する） ① 5グループ以内の場合，1グループずつ全員の前で発表し，発表後にそのグループの良かった点を3名程度の教員に発表してもらう ② 6グループ以上の場合，3グループでみせ合い，発表後にそのグループの良かった点を3名程度の教員に発表してもらう ・本教員研修の振り返りを行う
時間 100分	教員研修の内容（4回目：好きな音楽の特徴を捉えたダンスの創作）
10分	・教員研修の趣旨と行動目標（知識，技能，態度）の説明をする ・リズム系ダンスにおけるよい動きを引き出す視点の再確認をする （空間，時間，力それぞれの対極の要素を組み合わせながら踊る） ・サンバ，ロック，ヒップホップなどの音楽のリズム（強弱や拍の長短，アクセント）と動きのリズムを同調させるためのポイントを再確認する
20分	・研修実施者が用意したサンバ，ロック，ヒップホップ音楽をもとに，一緒に踊りながら動きの素材を引き出す ・教員研修に参加した教員を3-4人ずつのグループに分け，研修実施者が用意したサンバ，ロック，ヒップホップの音楽の中から踊りたい音楽を決めてもらう
40分	・決めた音楽の特徴を捉えながら，グループでオリジナルダンスを創作する時間をつくる （この際，目安はサビの32拍とし，最初と最後のポーズも決めることとする） ・巡視しながら各グループの状況に応じた空間，時間，力の工夫と音楽のリズムの同調に関わる即時的な言語指導を加える
15分	・リズム系ダンスの発表会および動画撮影を行う （発表会の実施方法：参加教員の人数によって変更する） ① 5グループ以内の場合，1グループずつ全員の前で発表し，発表後にそのグループの良かった点を3名程度の教員に発表してもらう ② 6グループ以上の場合，3グループでみせ合い，発表後にそのグループの良かった点を3名程度の教員に発表してもらう ・本教員研修の振り返りを行う
15分	・教員が，本研修で使用した音楽のリズムにおいて捉えた特徴を，教員研修用シート②に記載してもらう ・教員研修用シート②に，使用した音楽のリズムの特徴を捉えた動きのリズムで工夫した点について記載してもらう ・教員研修用シート①に記載した内容および気づきを4名程度の教員に発表してもらう

評価	知識	・教員が記載した教員研修用シート②の「本教員研修で使用した音楽のリズムにおいて捉えた特徴」および，「使用した音楽のリズムの特徴を捉えた動きのリズムで工夫した点」について，具体例を示しながら説明ができているか
	技能	・音楽のリズムの特徴を捉えながら，空間，時間，力の組み合わせを工夫できているか
	態度	・教員が記載した教員研修用シート②のリズムに乗って踊るダンスの好意度評定（5 段階）が 4 以上になっているか

表 5. リズム系ダンスにおける「児童生徒の意欲を引き出す指導方法が分からない」という「悩み事」を軽減させるための教員研修の内容

悩み事		児童生徒の意欲を引き出す指導方法が分からない
行動目標	知識	教員が，児童生徒の動きをみて，音楽のリズム（使用する音楽の強弱や拍の長短，アクセントの特徴）と動きのリズム（空間，時間，力の観点）を同調させるための即時的な言語指導のポイントを説明することができる
	技能	教員が，児童生徒の動きをみて，空間，時間，力の観点から即時的な言語指導をすると同時に，よい動きの示範をすることができる
	態度	教員が，リズム系ダンスの指導に自信をもつことができる
時間 125 分	教員研修の内容（ダンスの専門家による児童生徒への授業実践をみて学ぶ）	
児童生徒を対象にした授業		
5 分	・心と体ほぐしのウォーミングアップを行う	
10 分	・ダンスの専門家が考えた振り付け（32 拍分）を児童生徒に教える	
20 分	・児童生徒を 5 人ずつのグループに分け，空間，時間，力それぞれの対極の要素の組み合わせを意識しながらよい動きに近づけられるよう練習する時間をつくる （この際，進度がはやいグループがあれば，動きにアレンジを加えたり，立ち位置や構成を加えたりさせても良い） ・ダンスの専門家は，巡視しながら各グループの状況に応じた空間，時間，力の工夫に関わる即時的な言語指導を加える	
10 分	・リズム系ダンスの発表会を行う （発表会の実施方法：児童生徒の人数によって変更する） ① 5 グループ以内の場合，1 グループずつ全員の前で発表し，発表後にそのグループの良かった点を 3 名程度の児童生徒に発表してもらう ② 6 グループ以上の場合，3 グループでみせ合い，発表後にそのグループの良かった点を 3 名程度の児童生徒に発表してもらう	
5 分	・リズム系ダンスのよい動きの視点の振り返りを行う	
授業実施後の協議会		
15 分	・授業実施者（ダンスの専門家）からの授業の振り返りをする （授業の目的が達成できた点と改善点など）	
30 分	・教員自身がリズム系ダンスの授業を実施する際にどのような授業計画でどのような指導をしていくか考え記載してもらう	
15 分	・参加教員を 5 人ずつのグループに分け，教員が考案した自身のリズム系ダンスの授業計画をグループ内で発表してもらう（1 人 3 分程度）	
15 分	・各グループの代表者に発表してもらう	
評価	知識	・教員が，児童生徒の動きをみて音楽のリズム（使用する音楽の強弱や拍の長短，アクセントの特徴）と動きのリズム（空間，時間，力の観点）を同調させるための即時的な言語指導のポイントを説明することができるか
	技能	・教員が，児童生徒の動きをみて空間，時間，力の観点からよい動きの示範をすることができるか
	態度	・教員が記載したリズム系ダンスにおける指導の自信（5 段階）が 4 以上になっているか

注釈

注 1）悩み事

本論文では，リズム系ダンスの指導に関する特有の不安（teaching anxiety）だけではなく，Fuller and Case（1969）の示す教員の心配（concern）を含め，「悩み事（teaching anxiety and concern）」と定義する．その理由として，次の点を考慮したからである．第 1 に，教師教育者が，教員養成のカリキュラムや教員を対象とした教員研修の内容の改善を試みる際，その手がかりとして対象者の指導不安（teaching anxiety）や心配（concern）の実態を調査する試みが多くみられるからである（例えば，Behets，1990 ; Bilali，2014 ; Fuller and Case，1969 ; 木原・松田，2002 ; 山口ほか，2017）. 第 2 に, 指導不安（teaching anxiety）は, 指導に関する特有の不安を示す際に用いられ（Bilali, 2014），教員の心配（concern）は，自己（self），課題（task），影響（impact）の 3 つに分類されており（Behets，1990），それらの関係を包括する概念規定が必要だったからである．

注 2）教員研修

わが国における教員研修は，教員が自身で行う自己研修，校内で特別に集合研修を設定したり日々の校務を通して実施されたりする校内研修，教育行政機関での研修，民間および任意団体等での研修，教職大学院での研修，を含む校外研修に大別できる（教職員支援機構，2018）．本論文における教員研修とは，この 3 つの教員研修の区分の中でも自己研修に位置し，教員がリズム系ダンスの指導の教材研究をする際に大学教員と連携して実施する教員研修とする．

注 3）ダンスの指導力

教員のダンス指導の「悩み事」の要因となるのは，ダンスにおける評価基準や評価規準のあいまいさであることが報告されている（長谷川，2018）．さらに，宮本（2005）は，評価を検討すること，つまり，どういう動きがよいのかというパフォーマンスに関わる視点が明らかになれば，ダンス指導の具体的な指針を見出すことができると述べている．このことから，ダンスにおけるよい動きを引き出す視点を理解し，子どもに提示できることが，ダンスの指導力の中核となると言えよう．そのため，本論文におけるダンスの指導力とは,「よい動きを引き出す視点について理解し，子どもに指導できる力」と定義する．

注 4）教職経験年数

教職経験年数の内訳については，木原（2004）を参考に，若手教師を 5 年以内，中堅教師を 6 年-15 年，ベテラン教師を 16 年以上と設定する．

引用・参考文献

Behets, D. (1990) Concerns of Preservice Physical Education Teachers. *Journal of Teaching in Physical Education,* 10: 66-75.

Bilali, O. (2014) The Teacher Anxiety Scale: The study of validity and reliability. *Journal of Educational and Social Research*, 4(2): 90-95.

茅野理子（2013）栃木県学校体育におけるダンス指導の現状と課題について：ダンス必修化に関するアンケート調査から．宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要，36：25-32.

中央教育審議会（2015）これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について－学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて－（答申）．文部科学省.

Fuller, F. and Case, C. (1969) Concerns of Teachers. A Manual for Teacher Educators: Increasing teacher satisfaction with professional preparation by considering teachers' concerns when planning preservice and inservice education. Research and Development Center for Teacher Education: pp. 1-44.

ガニェ, R.M.，ウェイジャー, W. W.，コラス, K. C.，ケラー, J. M.,（鈴木克明・岩崎信監訳）（2018）インストラクショナルデザインの原理．北大路書房，京都.

長谷川千里（2018）教員免許状更新講習における「現代的なリズムのダンス」の指導方法の検討：受講者の記述から課題を探る．東京女子体育大学東京女子体育短期大学紀要，53：165-173.

加登本仁・松田泰定・木原成一郎・岩田昌太郎・徳永隆治・林俊雄・村井潤・嘉数健悟（2010）体育授業の悩み事に関する調査研究（その 1）－教職経験に伴う悩み事の差異を中心として－．学校教育実践学研究，16：85-93.

嘉数健悟・岩田昌太郎・木原成一郎・徳永隆治・林俊雄・大後戸一樹・久保研二・村井潤・加登本仁（2015）中学校保健体育教師の体育授業の力量形成に関する研究：教職歴の差異による悩みに着目して．沖縄大学人文学部紀要，17：39-48.

木原成一郎・松田泰定（2002）教育実習生の体育科指導における心配に関する調査研究．学校教育実践学研究，8：1-8.

木原俊行（2004）授業研究と教師の成長．日本文教出版，東京.

教職員支援機構（2018）教職員研修の手引き 2018：効果的な運営のための知識・技術．https://www.nits.go.jp/materials/text/files/index_tebiki2018_001.pdf,（参照 2020 年 9 月 10 日）

松本奈緒・寺田潤（2013）男女必修化時代の中学校ダンス実施の現状と指導者の問題意識：秋田県中学校保健体育教諭の研修レポートを参考として．秋田大学教育文化学部研究紀要，教育科学，68：25-34.

松本富子・中村なおみ・小林峻（2013）ダンス指導法実技研修にみる現職教育の成果に関する検討．群馬大学教育学部紀要，芸術・技術・体育・生活科学編，48：105-117.

三浦弓杖（1995）舞踊教育で今何が問題か．体育科教育，43(7)：10-13.

宮本乙女（2005）創作ダンス授業における学習者によるパフォーマンス評価の研究．お茶の水女子大学附属中学校研究紀要，34：65-86.

宮本乙女（2012）「鑑賞」を活用して表現の技能と理解を育てる学習指導：中学 1 年生男女共修の 8 時間の学習より．体育科教育，60(2)：32-35.

文部科学省（2013）学校体育実技指導資料第 9 集－表現運動系およびダンスの指導の手引き－．東洋館出版社，東京.

村田芳子・松本昌代（2004）生涯学習に向けた「リズムダンス」・「現代的なリズムのダンス」の学習指導に関する縦断的研究．日本女子体育連盟学術研究，21：21-44.

中村恭子（2009）中学校ダンスの男女必修化の課題：中学校教員を対象とした調査にもとづいて．順天堂大学スポーツ健康科学研究，1(1)：27-39.

中村恭子（2012）移行期のアンケート調査から見えてきたダンス教育の展望と課題. 体育科教育，60(2)：18-21.

大西祐司・三田沙織・岡出美則（2016）表現リズム遊び・リズムダンス・現代的なリズムのダンスにおける現状と課題：学習指導要領に導入されてからの文献を対象に．びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要，13：35-48.

佐藤和紀・齋藤玲・堀田龍也（2016）授業実践・リフレクションによる初心者教師のメディア・リテラシーに対する意識の変容．日本教育工学会論文誌，39：29-32.

高根信吾・新保淳（2017）体育教員における省察の可視化と研修システムの総括と今後の課題．常葉大学経営学部紀要，4（2）：51-57.

武井正子（2003）－高等学校(420 校)における－ダンス授業の実態．体育科教育，51(3)：74-77.

山口莉奈・正田悠・鈴木紀子・阪田真己子（2017）ダンス経験のない教員がダンスを教えるために：指導不安の定量化．認知科学，24(1)：141-145.

山﨑朱音（2013）ダンス授業実践に向けた実技研修の在り方－静岡県内中学校教員のダンス授業の実施状況の把握を通して－．静岡大学教育学部附属教育実践総合センター紀要，21：73-81.